

維孝館学園クリエイイト会議「第2回学校視察研修」 委員の方々が気づかれた点やご感想

教育委員会学校教育課

12月2日(月)に実施した亀岡市立亀岡川東学園の視察をとおして委員の皆様が気づかれた点やご感想等をまとめました。

【参加者(16名)：教育制度部会8名、通学部会3名、地域・広報部会2名、事務局3名】

1 施設を見学したご感想(印象に残ったこと、特徴点や工夫を感じた点、本町で生かせそうなこと)

- 生徒数が250名ということもあり全体にコンパクトである。
- 広い!きれいな!教室が平屋で、1~9年までつながっているというアットホーム感を感じた。
- どの学年も1クラスだから可能なのかもしれないが、全学年が同じフロアにあることがよいと感じた。
- ワンフロアに全ての学年が入れるということは、児童・生徒の縦のつながりを深めることができるとともに、教員の目が他学年へ行き届き充実すると思った。
- 平屋で伸び伸びと学べる広々とした空間が印象的であった。
- 広い敷地に施設が建設され、広くすっきりとしたイメージだった。
- 敷地面積が広く、建造物の配置等に余裕が見られる。
- とても美しく清潔で立派な施設だった。京都府でただ一つの義務教育学校だから補助金が多かったのか。市教委の方に聞いたところ20億円ほどかかっているのではということだった。
- 教室の天井も高くゆとりがあり、採光性も保たれて明るい。(2名)
- 木材を使いゆったりした校内で、本町の参考になると思った。
- 木をたくさん使っている。
- 昇降口へ行くまでの間に職員室が見えるのはよいと思った。
- 冷暖房設備や廊下などに設けられたセンサーライトなど公立学校として先進的な施設では・・・と思った。
- 全体的にとっても明るい印象を受けた。
- 教室横(廊下)に少人数の会議、集会ができる「ひだまりスペース」が設けられている。多目的なスペースはオープンでよさそうだった。(2名)
- フリースペースが多い。
- シンボルである「絆空間」は素晴らしく、一つの施設のように工夫した利用ができると感じた。
- 「絆空間」が広々としていて文化的発表や集会が持てるような場所、また本の貸し出しスペースや読書ができるテーブルが設置されている図書室にもなっていて素敵だと感じた。
- 図書室の役割を担い、行事を行う場所として使われる「絆空間」という円形の場所

があった。天井が高く明るく良い印象を受けた。

- ・読書スペースの階段に本が並んでいたのが印象的だった。
- ・地域図書館は、地域とのつながりを感じる場所でもよかった。
- ・加配教員や施設・設備等、予算措置を担保して進めることの必要性を感じた。

▲全体的にきれいすぎて、展示も少なく殺風景に感じた

▲周辺は山々に囲まれて景色はきれいだが、校内に緑（植物）がほぼなかった。

▲「絆テラス」の活用について聞いてみたかった。学校にウッドデッキがあるのとはとてもいいと思うが、メンテナンスは大変ではないかと思った。

▲電気の関係で建設時はソーラーシステムが推奨されていた。なぜ設備されなかったのか。

△本町でも前後期の生徒が交流できる場所が必要。ランチルームがあればなおよいのでは・・・。

2 視察校からの説明を聞いてのご感想(印象に残ったこと、特徴点や工夫を感じた点、本町で生かせそうなこと)

【開校までの準備】

- ・最初に小学校が統合（昭和 30 年代）し、その後に隣接する 1 小学校、1 中学校が義務教育学校になったことは保護者や地域の方々の理解が得やすかったと思う。
- ・比較的スムーズに開校できたように感じた。
- ・平成 20 年度に 4 つの自治会長及び各種団体の長による協議会の設置、21 年度には教育委員会及び学校による研究会の設置により一貫校について検討されている。25 年 7 月の工事着工までに、小中合同体育祭開催など試行錯誤されていることがわかった。
- ・自治会長や各団体の長からなる「学校運営協議会」が平成 20～29 年に作られていた。地域の方の会がどこにもあって、大きな役割を担っていた。本町にもあればよいと感じた。
- ・早くから小・中学校の「学校運営協議会」が発足していた。
- ・早くから小・中学校合同の体育祭等が実施されていた。

▲すでに 4 小学校が統合（昭和 30 年代）され、中学校と隣接していたので小中一貫校への移行はスムーズであったとの説明があったが、保護者への説明や理解についてもう少し聞いてみたかった。

△担当者が長期にわたり担当されている点は、本町にないところである。今後は、町教委の担当の窓口を長期的に固定されることを望む。

△「学校運営協議会」等を設け、住民へも何度も説明があったのはよかったと考える。本町でももっと必要だと思う。

△町教委がもっとイニシアチブを取って進めた方がいいのではないかと。

△自治会からの声によって小中一貫教育が進んだことは、宇治田原とは異なり逆だと思った。自治会の思いからのスタートなので不安や反対も少なかったのではないだろうか。

△地域の方々のご意見を集約する仕組み（この学校では運営協議会）を本町においても作っておくことが必要であると考え。

△本町でも住民や企業も交えた地域社会とともに継続可能な支援体制を早期に望む。

△クリエイト会議の後の準備会はPTA役員、OB、地区の代表、学校の教員等で構成したらよいのではないか。

【教育課程、小中の時程、専科教育、教科担任制、学年等の枠組み等】

- ・各校においてはチームとして教育に当たる必要を感じた。
- ・小中のチャイムを合わせるために中学校の50分授業を一部45分にし、その足りない部分を補うために7時間目の授業を作る等、工夫されていた。
- ・専科教育は算数・数学、理科、英語で効果的である。
- ・例えば人権集会を4年までの学年とそれ以降の学年で分けるなど、集会の種類によって枠組みを柔軟に変えることも効果的である。
- ・文科省のきまりが多いのかと思っていたが、義務教育学校は独自のカリキュラム組めることなどを知り、可能性の大きさを感じた。
- ・工夫次第でチャイムを混乱なく鳴らせることがわかった。
- ・小中一貫教育は6・3制のイメージが強かったが、もっと柔軟に考えられるのだと感じた。
- ・小学校の卒業式を前期課程修了式、中学校入学式を後期課程開始式としているところは、9年間の義務教育学校でありながら区切りとなり、生徒への意識付けとしてよいと感じた。

▲チャイムが小学校用（前期課程用）、中学校用（後期課程用）、小中学校用と3種類あることで授業の妨げになったり混乱したりすることはないのかと思った。後期課程の45分授業と50分授業の併用もどうかと思った。（4名）

▲小学校英語の取組、小中教員の相互乗り入れ等が行われていてそれなりの成果が報告されていたが、小中9年間を貫く授業の型など、資質能力を付けるための全教科を貫く工夫について知りたいと思う。

△学校独自の時程や教育課程の組み立てをしている点は、町教委や校長の交渉力が必要であろうが本町でも試みてはどうか。

【教員の協働、教員人事（異動や校内配置）、教員免許、管理職体制（学校運営）等】

- ・（教員の協働体制に関わって、）職員室の雰囲気がよく、教師の表情も穏やかでゆったりした感じを受けた。
- ・前期課程、後期課程の教員がともに1～9年生の成長を願い喜び合われていることが伝わり、温かい教員関係を感じた。
- ・コミュニケーションを取らざるを得ないから会話が増えたということだが、教員の数がそこまで多くないからこそできたのかと思う。
- ・中学の先生が子どもたちの成長過程を見られるのはすごくよいことだと思う。幼稚園や保育園でもいえることだが、大きい子を見ている先生ほど、子どもに求めるもののハードルが高いと思う。発達の様子を実際に目で見られることは大切だと思う。
- ・校長1名、副校長1名、教頭2名の体制であったが、あらためてこの配置がよいと

思った。

- 学年主任を1～4年に1人、5・6年に1人、6年以上は各学年に1人と配置していた。
- 生徒数が少なく単級だが、加配の先生がいたり教科によっては複数の先生で見たりと余裕がありそうだった。

- ▲学級担任の小中相互乗り入れはなく、加配教員はすべて府費(負担教員)であった。
- ▲免許併有率等、知りたいことが伺いきれなかったのが残念である。この後の文書による回答で知りたいと思う。
- ▲教員免許について小・中学校の両方を持っていることが基本で、現段階では小学校免許だけでも可能とのことだが、人事異動で小学校免許しか持っていない先生の希望があるのか不安である。
- ▲学級担任以外の校務分掌の中で、小中学校教員の配置や協働がどのようになっているのか、また教務の先生の多忙さはあるといわれたが他の先生についてはどうなのか知りたかった。

△(管理職体制について) 校長の教員等に対する指導力や校長に対する教員の信頼が必須条件である。

△(教員免許の取得状況については) 人事において十分要望していくべきである。

【子どもたちの様子(授業、学校行事、休み時間や放課後、部活動等)】

- 全体に落ち着いた様子であった。体育祭、文化祭など前後期の児童、生徒が準備から協力して実施するのはよいと感じた。
- 来客に対して子どもたちが気持ちのよい挨拶をしたり、廊下にいる来客に気付き教室から会釈したりする姿に、人として大切な心が育っていると感じた。
- 小さい子(小学生)はそれなりに、中学生は引き締まった表情で生活している点は立派である。
- 授業風景から落ち着いている様子が見受けられた。
- どのクラスも楽しそうだったし出会うと挨拶もきちんとしていて、子どもたちは明るく元気なイメージだった。
- 掲示物の言葉に教員の子どもたちの成長への願いが込められていると感じた。
- 学童も校内にあった。中庭にもつながっていて外でも遊べるようでよかった。

▲授業中(放課後の学年もあったが)だったので、休み時間の子どもたちの様子が見られなかったのは残念だった。授業中の子どもたちの表情や態度は、9年生でもとても素直で無邪気な雰囲気を感じられた。

▲明るく社交的に見えた。もっといろいろな場面の子どもたちも見てみたい。

▲学童保育施設は、40人ほどが利用している部屋としては小さく感じた。

▲グラウンドが立派だったが、生徒が少ないためか野球部、サッカー部はなく陸上部のみの放課後使用ではもったいないと思った。

▲小・中学生の体格差によるトラブルはないのか。

▲特に前期課程(小学生)だが、挨拶が積極的にできていないと思った。

【地域・保護者との連携、PTA等】

- 地域組織がしっかりしていた。
- 義務教育学校にするにあたって、何度か説明会を行ったということだった。頻繁に行ったようではなかったが、スムーズに移行できたのだなと思った。
- 地域との関わりについては、町内ですで行われているものと類似しているものが多かった。
- 自治会長やPTAが中心となって教育支援協議会が設置されている。くわしくは不明だが、一応地域との連携が見られる。

▲ほそごう学園は地域やボランティアの方の協力が強いと感じたが、川東学園では地域との結びつきがあまり感じられなかった。(モデル校としてのスタートだからかもしれないが…。)

△学校やPTA、地元自治会代表などで組織する地域学校協働部が存在するが、本町にも将来的にこのような組織に発展する支援組織を立ち上げるべきだと思う。

△学校を支えるのは地域であると実感した。

【通学方法】

- 臨時バスの増発はあるが、路線バス3台で通学していた。
- 保護者の要望に應えるばかりでなく、家庭の責任の部分は家庭に返している点はいいと思った。
- 交通費の個人負担はなかった。
- 交通費については十分フォローしているので理解と協力を得られたのだと思う。
- 雨のせいか保護者のお迎えの車が多かった。校門前に車で待つスペースが必要である。保護者用の駐車場や行事の日の駐車場はどのように確保されているのか気になった。(2名)
- 後期課程の中学生は自転車、前期課程の小学生で近くの子は徒歩で、遠くからの子は路線バスを利用していた。
- 下校時にバスの待ち時間が発生していて、教員が対応していた。この役割を地域の方や学童職員等が担えばよいと思った。

▲個人負担のない路線バスを使っているとのことだったが、今後もその方法が続いていくのか不安もあるのではないかな。

▲バスへの乗り遅れなどの対応や一般客とのトラブル、地域の声など、路線バスの利用についてもっと聞きたかった。

▲後期課程は全員自転車だということだが、徒歩の子どもと校門前で接触するなど、危ないことはないのかな。

△路線バスが無償ということであまくいっているというように聞いた。本町の参考になると考える。

△日常的に学校の情報を発信していることも理解や協力を得る条件になると考える。(大いに見習うべきである。)

△バス代を、子どもは負担していないが、利用者がそこまでいないからできるのかと

思った。本町では厳しいのではと思った。

△路線バスを活用されている。亀岡市では道路状況等恵まれているが、本町では国道等本線のみ路線バスが運行可能で、地域の中に入り込む場合困難でありスクールバス等の増便が必要になってくる。大きな課題である。

△本町地元企業に参画していただき、通学時間帯の通勤ルート、交通マナーなどの諸問題を解決したり、保有のマイクロバスの運行協力をお願いしたりするなど、地域社会が学校を支援することを求めていくことができないか。

3 その他、視察に行つて気づかれた点

- ・軌道に乗るまでは大変な苦勞があったことが話から伝わったが、教員が意欲を持ち取組んでいることもよく伝わってきた。
- ・視察の受け入れ校の対応だが、各分掌ごとの担当者がいて自信を持って受け答えしていたので、安心して質問ができた。あと担任の先生が同席してくれたら、なおよかったと思った。
- ・校長のみ発言するのではなく、分掌ごとに各人が対応していただいたのは、聞いていてわかりやすく想像しやすかった。
- ・各人が本音で答えていただけたように思えた。
- ・行政、学校、保護者、地域の間で議論を進める必要があると思う。その仕組みをどのように考えるのかということについての参考事例が伺えた。
- ・義務教育学校になってよかった点は以下のとおりである。
 - ☆前期課程が修了したらしまいでなく、1年の入り口と9年の出口が見られることが、教員の立場としてはよい。
 - ☆子どもたちにより多くの先生が関わり、その分多く評価できることがよい。
 - ☆6年と7年の境がないので同じ学習を繰り返すことがなく、かつつながりのある学習ができる。
- ・たくさんの教員が関わることで、その児童・生徒についていろいろな評価を得られることは、よい人的環境の中で子どもの自己肯定感が育つと感じた。

▲学園側の説明では当該校の評価は高いように思われたが、市内のほかの学校では一貫校について検討されていないということであった。このことから亀岡市としての学校に対する評価はどのようなものなのか疑問を感じた。

▲2つの学校の視察が教育制度部会からの要望から実施されたとのことだったが、通学部会、広報部会からの参加者が少なかったのが残念だった。(第2回の教育制度部会(10/9)で視察の件が提案されていることを12/3に届いたまとめでよく理解できた。もう少し早くまとめを届けてもらえたら、趣旨を理解して参加する委員もあったのではと思う。また、この教育制度部会に通学部会と広報部会の部長が参加されていたことが書かれていたが、副委員長として私も参加できなかったのか……。連絡をいただきたかったと思った。

△ほそごう学園と亀岡川東学園の視察を終え、準備がかなり早い段階から進められ、また、地域を巻き込んだ組織づくりがされていたように感じた。令和6年度の開校に向け、クリエイティブ会議のタイムスケジュールや年次ごとのゴール設定が明らかでないことが不安である。宇治田原町として最終決定へのプロセスを提示してほしい。